

## 第 25 回「測量の日」記念講演「東日本大震災の教訓を語る」を開催

一般社団法人 高知県測量設計業協会

昭和 24 年 6 月 3 日に「測量法」が制定されているが、測量の重要性を認識している国民は少ない。国土交通省は、平成元年に制定 40 周年を記念して 6 月 3 日を「測量の日」と定め、関心を高めるよう各種イベントを全国各地で実施している。

四国では、「測量の日」四国地区推進協議会(会長 川崎正彦)が主催し、一般社団法人全国測量設計業協会連合会四国地区協議会の共催で記念講演会を毎年開催している。

講演の内容や会場の準備は、各県の測量設計業協会が持ち回りでお世話している。今年は高知県測量設計業協会が担当することになり、5 月 21 日 15 時 30 分より「ザ・クラウンパレス新阪急高知」で表記の記念講演を企画・開催した。

高知県測量設計業協会は、東日本大震災が発生した平成 23 年の 6 月に会員 15 名が宮城県に行き、被災地調査とボランティア活動をしている。また、昨年 9 月には、橋口会長以下 15 名で宮城県を訪問し、宮城県測量設計業協会と意見交換会をしていた。そのようなことから、講演のテーマは「東日本大震災の教訓を語る」と決め、宮城県測量設計業協会に講師をお願いした。被災地の測量設計会社は震災復旧のため寝食を削って働いている。それにも関わらず、宮城県測協会長の菅井一男氏と同協会 3.11 東日本大震災検証委員会副委員長の西條祐樹氏が快く引き受けてくれた。

東日本大震災では 1 万 8 千人の死者・行方不明が出たが、M9 クラスの南海トラフ巨大地震が発生した場合、高知県では最悪 4 万 2 千人の死者が出ると予測されている。しかし、県民が正しい防災知識を身につけて早期避難をするなどすれば、死者は 1/20 以下の 1,800 人にまで減らせるという予測もある。

今回の話をできるだけ多くの県民、とりわけ南海地震の際には被災者救助の中心的役割を果たしてもらわなければならない若者には是非とも聞いて欲しいと思った。このため、地震防災

教育に熱心に取り組まれている高知高専の岡林宏二郎教授、高知工業高校の上原健教諭、潮江中学校の宮田龍校長にお願いし、生徒や学生を参加させていただいた。お陰で会場一杯となる 140 名の参加者があった。

マスコミの関心も予想以上に高く、NKK 放送、高知さんさんテレビ、高知新聞社、毎日新聞社など多くの取材があった。

記者からの質問で感じたことは、防災対策、災害調査・復旧における測量設計会社の役割がほとんど理解されていない、家庭を犠牲にし寝る時間も惜しんで災害復旧に取り組んでいる技術者がいることが意外と知られていないということであった。



主催者を代表して挨拶される「測量の日」四国地方推進協議会副会長で、国土交通省国土地理院四国地方測量部長の廣田三成氏。



会場は 140 名の聴講者やマスコミで溢れた。



NHK 放送やさんさんテレビなど4台のビデオカメラによる取材があった。



フロアーからは、参加していた高校生や企業の技術者から活発な質問があった。



講演をされる宮城県測量設計業協会会長の菅井一男氏。



閉会の挨拶をされる全国測量設計業協会連合会四国地区協議会会長の古川直博氏。



講演をされる宮城県測量設計業協会3.11 東日本大震災検証委員会副委員長の西條祐樹氏。



記念講演の様子は、NHK 総合テレビの「ニュース 21」やさんさんテレビなどで放映された。又、高知新聞朝刊などでも紹介された。

【高知県測量設計業協会技術委員長 右城猛】